

我孫子市 生涯学習推進計画策定部会 第6回会議

開催日時：平成27年12月4日（金） 午後2時から4時まで

開催場所：我孫子市教育委員会 大会議室

出席者：（出席委員）増田委員、飯牟礼委員、岡本委員、森委員、藤原委員、深津委員、
足助委員、山本委員、広瀬委員、鈴木委員、辻委員
（事務局）加崎、山田、若菜

議 題：1. 生涯学習推進計画（案）について

（1）修正事項について

（2）全体を通しての確認

2. その他

【事務局】 それでは、第6回生涯学習推進計画策定部会を始めさせていただきたいと
思います。議事進行につきましては、部会長であります増田部会長より、議事の進行をお
願いします。

【増田部会長】 本日は、大変寒い中、またお忙しい中、会議に出席いただきありがと
うございます。

この推進計画策定の会議も今回で6回目となりますが、これまでの5回の会議で皆様か
らいただきました意見、それから教育委員会、社会教育委員会、あびこ楽校協議会、ま
た、生涯学習推進本部会議、それから幹事会、さらには生涯学習関係各課からも意見をい
ただいております。全てということではありませんが、いただきました意見を踏まえまし
て、調整して計画案として皆様にお配りしております。本日は、この計画案全般について、
皆様からご意見をいただきたいと思っております。

それから、これは事務局の希望でもありますが、この会議での意見を取りまとめて、こ
の策定部会の計画案として最終決定していきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願
いします。

それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。

初めに、事務局から、今回の生涯学習推進計画案について説明をお願いします。

【事務局】 それでは、お手元にあります12月4日版という計画案をご覧になってください。

まず、3ページをお開きください。この「計画策定の趣旨」というのがございます。実は、前回の皆さんにお集まりいただいた部会の後、社会教育委員会議やあびこ楽校競技化などでいろいろ検討する場がありまして、その辺の意見により、修正させていただいています。計画案の下線の部分がそれに該当します。基本的なコンセプトは変わっていないのですが、若干表現を補修したというふうに考えてください。以下、下線が入っている部分は、そういう微調整が入った部分ということになります。例えば7ページのところをお開きいただきたいのですが、この部分も基本的なコンセプトは変わってないのですが、若干表現を変えるということをしていただいています。

次に、前回の会議のなかで、大きなご指摘がありました部分について、ご説明いたします。

15ページをお開きいただきたいのですが、この「基本目標」の部分、例えば今、①となっている部分ですが、前はここの部分が文章という形で書かれておりました。ただ、その文章について、3章で出てくる「施策の方向」と表現も重複するだろうということで、そういった重複は避けたほうがいいのではないかと、むしろ「基本目標」の文章を後ろの「施策の方向」の文章として生かしたほうがいだろうというご指摘がございましたので、文章自体は後ろの「施策の方向」のほうに移動し、施策体形、次の17ページにある施策体形の①、②、③という番号なり、施策の方向ですね、その表題をここに表記するという形になりました。全体として非常にすっきりした形になるというふうな形をとっております。

それから、この部分に関しても、下線の部分は若干表現というのを変えております。子どもから大人までというのをぜひ入れたいというお話がありましたので、子どもから大人までということをお話しております。それから、「基本目標2」のところの②を見ていただくとわかるのですが、「子どもから大人まで」ということで、委員の方から生涯学習の計画であるのに子どもという言葉がないというのは、それは問題だろうということで、15ページのところで表題に関しても、あるいは表現に関しても子どもということもしっかり入れるという方向で調整をさせていただいています。

それから、前回の委員会で重要なご指摘だった2点目になりますが、23ページをお開きください。ここの左のほうですね、これは前回のプランを思い出していただけるとわか

と思うんですが、ここの施策の方向の「①学びへの情報提供体制の充実」という部分に関して、基本目標の部分と重なるだろうということで、先ほどの以前にあった文案と以前のを調整した形でここに表記しています。それから前回の計画案ですと、この施策の方向の①の後に、施策の展開ということで黒丸つきの見出しが入っていました。あらゆる生涯学習情報の提供の充実とあるのですが、これが単に黒丸で表題だけ明記されていた形です。ただ、これに関しては、委員の方からいろいろご指摘があって、確かにこの計画は理念計画であり一種の憲法であり、10年のスパンがありますので、個々の事業までは載せられないだろうと、ただし、こういった施策の、以前の計画書ですと、施策の展開として黒丸で表題だけあっても、具体的なイメージが浮かばないと。実施計画につなげるような表現があったほうがいいだろうと、そういったご指摘がありました。そういったご指摘を総合して、「①学びへの情報提供体制の充実」に関して文章を入れた後、黒点になっていますが、あらゆる生涯学習情報の提供の充実と、これだけではなくて、それに補足するような表現、具体的事業まで細かくはないが、少なくとも方向性をより具体的に表記したものでいうことでこういうふうに書かせていただいています。そういった中で、下線の部分、表現が加わったり微調整されている部分がございます。

以下、この考え方に沿って、28ページをご覧くださいと、同じように、ここにはたしか、地域の魅力云々ということで黒丸が4つあったわけですけども、その黒丸4つに関して、黒点という形で地域の魅力を見つける云々と、地域づくりに関する実践的な学習云々ということで、それぞれに具体的な説明を加えるという形になっています。

以下、これと同じ形が踏襲されていきまして、32ページでは、「多様化する学習要求に対応した施設・機能の充実」ということで同じような内容と、組み立てと。それから、少しめくっていただいて、37ページのところでは、基本目標の4番に関して、かなり文章が膨らんでいるのですが、「学習を通じて身につけた成果を活かす機会の拡充」ですとか、スキルアップに関して、個々の方向性に関してのちょっと具体的な記述が入っているという形になっています。

それから、第4章の「計画の推進体制の進行管理」これは後で補足のご説明があるかと思うのですが、この部分に関して若干文言が変化しているということと、それから最後の第5章をご覧くださいなのですが、52ページになりますね。ここには、計画策定の経緯ということで本日追加資料としてお渡しした資料が机の上に置かれてるかと思うんですが、策定の経緯が記述されて、次の53ページでは、策定部会の委員名簿と、それから次

の54ページでは、設置要綱という形で資料をまとめさせていただいております。それから、最後のところに、巻末に用語集ということで、現時点では56ページのところにある基本的な言葉になりますが、その説明を加えるという形となっています。

以上、前回のご指摘の中で特に重要なポイントだった修正箇所について簡単にご説明させていただきました。

【事務局】 追加になりますが、本日お手元に追加資料として、4枚ほど配付をさせていただいていると思いますが、現在、市役所全庁的にこの計画の内容につきまして意見を求めている最中です。その中で、何点か意見が上がってきています。先日、皆様にお配りした資料の後に修正があったものについて、本日、4枚ほどご提示をさせていただいてます。

まず1点目については、14ページの差し替えになります。2番の基本方針というところになりますが、ここに添付されていた図を変更させていただいています。それと、次の25ページ目のところになりますが、基本目標に、「生涯にわたって様々な学びのできるまちづくり」の現状というところで、この一番下のところの丸（一項目）を追加させていただいています。次に48ページ、こちらは進行管理になりますが、こちらも修正させていただいた状態になっています。それと、先ほども説明ありましたが、52ページ、計画の策定の経緯ということになりますが、この策定部会の他に、皆様の母体であります社会教育委員、あびこ楽校協議会、それから幹事会等、いろいろな会議の場で、計画を見ているということで、この中に追加をさせていただいております。

【増田部会長】 それでは、ただいまの説明について、まず下線部分の修正事項について、ご意見いただきたいと思います。

1章、2章について、ご意見をいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【深津委員】 一応当初より、私は見やすくなったと思いますし、私も含め各委員の意見も聞いていますけれど、とてもありがたいと思います。この下線がずれてるのはこれからですよ。

【事務局】 下線につきましては、今回の資料として分かりやすいように下線を引いて

います。後ほど消していきます。

【深津委員】 ああ、そうですか。あと、こういう文章を書く時って、この一番最後のところに点が来るときは点つけないのではないですか。丸はつけるのですが、点ってつけないんじゃないですか。わざわざ点が飛び出ているところがありますけど、引っ込んでいるところはあったかもしれない。例えば、この3ページ目の上から1、2、3、4、ほらこの点、点、点って何か点が並んでいるような。

【増田部会長】 句点の使い方ということですか。それについては、後ほど最終的に修正していきます。

他にございますか。1章から2章までのところで何か。

【藤原委員】 すみません。内容ではないのですが、今日も14ページの追加資料が配付されておりますが、この図になります。何か突然これが出てきた感じで、何かほかの図を見てももう少し落ちついた図なんです。これだけ何か飛び出てきてるような気がするんです。何か意図があれば構わないのですが、普通でいいんじゃないですか。

【増田部会長】 一応、上の基本方針をわかりやすく図式化したという形にはなっているんですけども、これについてちょっと違和感を感じるということですか。

【藤原委員】 書体とそれから大きさに違和感を感じるんですよ。

【増田部会長】 この図ですか。

【事務局】 この図につきましては、今後、製本する際に全体的に調整をさせていただきます。ただ、今、上の「学び、活かし、つながるまち、我・孫・子」というのをわかりやすくするために図を表示させていただいています。ですから、今後計画全体に合わせた図にします。図の内容についてご意見がありましたらお聞きしたいなと思います。よろしくをお願いします。

【増田部会長】 特に丸と丸の間に書かれている文言ですが、これについて何か違うだろうというようなご意見がございますか。

いかがですか。

【足助委員】 まず、しつこいようですが、17ページの基本理念という、一番下の、明るく、活力ある、心のまちづくり、「心」を取りたいんですけども。皆さん、いかがでしょうか。

この基本目標の中には、まちづくりが5つ出てくる。ここには「心」はついていません。「心」がついた経緯、何回目かのときにもお聞きしましたけれども、今や、まちづくりというと建物をつくることではないということは、常識でございます。「心の」いうのは非常にひそやかなことだと思います。自ら外に出て皆さんと触れ合うというイメージが全く浮かんでこないと思います。私だけでしょうか。ぜひ、取っていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

それから、これあとの章にまたがる場所ですが、このアンケートがぴたっと張りついていますよね。これ非常にトーンが変わっちゃうんですよ。今、藤原委員が言われた、この基本方針のと、さっきのと同じような感覚を受けるんです。

私の案は、例えば、7ページの(3)で、「学びや経験から得た学習成果を活かす仕組みづくり」の中の中段にアンケートを読み込んでますよね。

【増田部会長】 グラフは必要ないだろうということですか。

【足助委員】 ええ。このグラフその他の資料がどうしても欠かせないという要素であるならば、資料に移したらどうですかというのが私の提案です。

このアンケートによるところって非常に大事なところでして、例えば7ページのところの上から11行目ですかね、「生涯学習市民意識調査によると」というところから始まってますよね。知識や教養が高まった、26.1%、他の人の云々、24%、ずっと続いて、「しかし」ということがあるんですね、これ非常に重要なんですよ。社会や地域に役立てられるもの(20.6%)が高くなっている、「自由記入の中にも“社会貢献”や“ボランティアへの参加”を希望する人も見受けられます。」、こういうふうに読み込んでますから、出てくる具体的なアンケートは資料内に入れてはいかがでしょうかという提

案です。

それからもう1点いいですか。

【増田部会長】 はい。

【足助委員】 13ページ、「我孫子。私たちは、このまちが好きです。」この前に是非、我孫子市のキャッチフレーズである「手賀沼のほとり心輝くまち我孫子が好きです」を入れていただきたいです。人・鳥・文化のハーモニーとはなかなか入れにくいんですけども。

【増田部会長】 よろしいですか、ご意見は、3つですね。

まず、心のまちづくりというところの「心」を取りたいというご意見なんですけれども、これについて何かご意見ございますでしょうか。

【渡辺委員】 私も活力のある心なのか、活力があるまちづくりなのか、ちょっとわからないようなところになってしまうと文面が少しだれてしまう。であれば、「心」というのが取ってあっても活力のあるまちづくりにしてもいいかなという気はするんですけど。心は何だということ。

【増田部会長】 他にご意見ございますか。

それでは、これについて、一人一人聞いていきたいと思います。辻委員からよろしいですか。

【辻委員】 ぱっと見た瞬間にまちづくりってどうしても自分なんかは、いわゆる都市計画的なのがどうしても商業、観光とか何かそういうような感じに考えます。この部分があるので、心っていうのは教育的な部分とか学習とかっていうことに関係しているのかな、なんて思ったりもしたんですが、言われれば、この部分っていうのが、じゃあ何なのかと言われるとわかりにくいっちゃわかりにくい話なんですけどね。というところで、はっきりと申し上げにくいのですが。

【増田部会長】 鈴木委員。

【鈴木委員】 なくていいかなと思います。

【増田部会長】 それでは、広瀬委員、いかがですか。

【広瀬委員】 基本理念の中に、心のまちづくりというのがあって、これは変えないということでしたのですが、これと対応するのかなという気はしますが、文脈で読み込めるという気はしますので、なくても通じるのかとは思いますが。

【増田部会長】 深津委員どうですか。

【深津委員】 私はあってもいいかと思うのですが、ただ強調するのが、やっぱり一番大事なのは自分づくり、人づくり、まちづくりなので、もし「心」も残すのであれば、下線で自分づくり、人づくり、まちづくりを強調したらいいんじゃないかと。

【増田部会長】 藤原委員、どうでしょうか。

【藤原委員】 難しいですね、その上の説明書のところで、「活力に満ちた“心輝く”まちづくりを進めていきたいと考えます」と書いてありますよね。心輝くまちづくりがいいですかね。難しいな。

【増田部会長】 じゃあ、森委員、どうぞ。

【森委員】 3番目の「心の」というのを取るのであれば、2番の「思いやりの」も一緒に取って、自分づくり、人づくり、まちづくりと簡潔にする感じがいいかなと思います。

【増田部会長】 取るのであればということですか。

【森委員】 取るのであればです。

【増田部会長】 岡本委員、いかがでしょうか。

【岡本委員】 そうですね、ここだけ「心の」というのが出てくるのはちょっと違和感を感じたのですが、先ほど辻委員がおっしゃったように、何となくまちづくりということになるとハードをイメージするんですね。上の説明のところに「“心輝く”まちづくり」という、要するに学習という精神的な面、ソフトということイメージしてやってると思うんですけども、そういう意味では、「心の」はあったほうがいいかなというふうに思いますがね。

【増田部会長】 飯牟礼委員、どうでしょうか。

【飯牟礼委員】 生涯学習の推進計画そのものが、やはりハードのものをイメージしてないわけですよ。そうすると、「心」というのをあえてつけなくても必然的に人間というのが入ってくるのかなと思うんですけど。ただ、おっしゃったように、そうすると、「思いやりの人づくり」というのとダブルリンクするのではないかなというのもあって、ちょっと私も難しいなと思います。

【増田部会長】 山本委員はいかがですか。「心」をとったほうがいいんじゃないかという意見が出ていますけども、それについて。

【広瀬委員】 取ると本当にハードなイメージも出てきてしまうのかなというのもありますし、「心」を入れるとまたハートというか温かい感じがするので、一言で言えば、入れといていいのかなという気がします。

【増田部会長】 今、皆さんにご意見を聞いたんですけども、取ることや取らないことについて、はっきり言ってどちらでもいいような感じだと思います。それでは、この件について第1次の生涯学習推進計画で作っていただいた委員の方々に、入れた経緯や考え方等を聞いてみたいと思います。その人たちの意見も踏まえまして、取るか、取らないかを決めたいと思います。

事務局としては、1次、2次を踏襲して入れていきたいという考えであります。入れた経緯もあると思うので、どういう考えで入れてるかを聞いてみて、判断したいと思います。

【足助委員】 せっかく見直しで、これから先に向かっての話ですからね。だから、これはかたくなに変えないというのはいかがなものかと思います。

【増田部会長】 わかりました。

【渡辺委員】 上の部分いいですか、上の文章に出てきた「“心輝く”まちづくり」にしないで、「心のまちづくり」にした理由があると思いますが。

【増田部会長】 あると思いますね。

【渡辺委員】 文面が長くなるとか、くどくなるとかいうことで、「輝く」までは入れなかったのか。

【増田部会長】 その辺はわかりません。

【渡辺委員】 ちょっと「心のまちづくり」ってよくわかんなくなっちゃうなと思ったんで。

【足助委員】 先ほど私、この一番上の「我孫子。私たちは、このまちが好きです。」の頭に「手賀沼のほitori心輝くまち我孫子が好きです」を入れてくださいっていうのは、その点なんです。これは、我孫子市のキャッチで、もうどんどん発信してるわけですよ。

【渡辺委員】 だけど、それが下に入ってもおかしくはないですよ。わざわざ切っちゃうわけ。

【足助委員】 いえいえ、それを頭に入れてくださいって、私は言った。

【増田部会長】 「心のまちづくり」については、今お答えしたとおり、一度、策定された当初の委員の方にご意見を聞いてみます。今の考えとしては、理念は踏襲していくという考えでいます。

次の意見になりますが、第3章の市民意識調査のグラフですが、このグラフについては、資料のほうに回したらどうかという意見になります。この意見についてどうでしょうか。資料に回したほうがいいのか、このままでいいとか、何かご意見ございますか。

【藤原委員】 今、第3章のこのグラフを資料のほうへ回せという話ですね。

【辻委員】 確かにですね、もしここに入れるんだとすると、この分析結果をもとに現状をこう把握してますとかっていう形かなと思うんですけど、20ページの文面を見る限りにおいては、この後ろの21ページ以下のグラフの現状把握の結果を見てこうしてますっていうのが何か余りとれないような気がするんです。それで、課題があるから次に流し込んでいく形になろうかという気がするんですが、そういう意味では21ページとかのグラフが浮いているといえは浮いているのかもしれない。もしここに入れるのでしたら、もっとここから読み取ってもいいのかなと。

【増田部会長】 現状に、このグラフのパーセントを入れるということですか。

【辻委員】 このグラフで現状把握をするのなら、現状についての内容とかっていう感じだと思うんですけども。情報発信をどこで入手してますか、広報あびこ、口コミなんてのがありますが、全くそのことにはないんでとかっていうところがありますね。むしろ、ホームページで情報得てる人、そんなに多くないんじゃないかというところで、とか思うと、資料に回しちゃってもいいのかもしれない。もし、入れるんだとすると、その辺ももう少し整合、整合というか、せっかくここに出すんだからそれなりの理由があったほうがいいのかなという気がします。

【増田部会長】 他にご意見はございますか。

【足助委員】 このアンケート、今、辻委員がおっしゃるように現状のところに首突っ込

む場合ね、というのは後ほど出てきますが、市民との協働により推進しますと書いてますよね。それは具体的には書けないにしろ、こういった現状で把握したことを今後、協働により推進していくというニュアンスが出るようですが、例えば、先ほど私、例に7ページの社会や地域に役立てられるものという、20.6%とあるじゃない、それ高いというふうにここでは言ってますが、さらに上位にはもっと、自分のためになったというふうにかかれてます。けども、この20%をもっとこのためにやるんだということを出すためには、出すように今後の市民との協働を進めていくというのが出ると、大変よろしいですけど。

今の現状の把握のところにこのアンケートの結果を文章系で読み込む、こういうふうにしたほうがよろしいかと思えます。

【辻委員】 すみません、たびたび。現状、これはあれですね、市が手がけている内容ということですね。今のこの20ページの文章の内容というのは、意識調査をしてみたら、それと乖離をしている、乖離をしているとかそういうものがあってというような形ですね。うん、なるほど。

【増田部会長】 そうですね、この現状に意識調査の数値をずらずら載せるという形ではないと思うんですけど。

【山本委員】 逆に課題に入れ込んでくるっていうのはどうなんですかね。課題のほうにこういう結果が出てるので、ということが課題ですみたいな。先ほど辻委員がおっしゃったように、現状と課題の間にぼんとかうグラフがあるようなふうになりがちなんですけど、ちょっと関連性をつけてあげると入ってくるのかなというようなものは感じているのが1つと、やはりどうしても、現状、課題、施策の方向で文章でずらっとやるとやっぱり、何ていうんですかね、バランス的なこともあるので、ここら辺でグラフというか、そういうのが入るとちょっと見やすいのかなというのを私は感じました。以上です。

【増田部会長】 他にどうでしょうか。広瀬委員、いかがですか。

【広瀬委員】 私はいろいろ皆さん考え方があってと思うんですけど、肝心の内容をちょ

っと吟味してみたいかなというのはあるんですけど。

【深津委員】 この資料って、よく本読むと※印で後ろのほうに、いうふうにはこれはしてないじゃないですか。

【増田部会長】 他に移すとすれば。

【深津委員】 そうそう。参考として、資料にこういうのがありますよって※印つけたほうが。そうすると、何もついてないと、ただこれ読んで、ああ、資料があるのかとしか思わんのかなとか。もし、関連付けるんだったら、この表を資料のほうにあるっていうことを※印か何かで描いておくと。

【増田部会長】 他に、いかがでしょうか。

このアンケート結果を課題の中に入れて込んでいくという案も出ております。その辺のところはどうでしょうか、他にご意見は。

【渡辺委員】 先ほどから、7ページのここの文面に返ってしまってるんで、これは必要ないと思います。文面をずっと読んでいくときも、内容の数字とかはほぼ見ないです。表が途中で出てくるととまります。基本的に見ません。ですと、内容は文面が、方向性が見えてくれば、その表現が表であったりなんかするものは資料で十分だと思います。ここをそんなに、表を見てじっくりとここは幾つあってというふうな読み方はしないと思います。

【足助委員】 おっしゃるとおりだと思います。ちょっと、だからこれトーンが違うんですよ、これ。

【渡辺委員】 ここが来ると見ないね。

【増田部会長】 いかがですか、表については資料に回したほうがいいですか。他に何かありますか。

【岡本委員】 そのほうがいいと思いますけれど。やっぱりこれ関連付けているのですよね。アンケートのこういう分析の結果、こういう課題がありますというふうなことでわかりやすくしたらどうかと思うんですね。表はもう一括して後ろへ回す、資料として回すと。

【足助委員】 そのアンケートを読み込む場合のあれとしては、今後の方向というあれが、方向性を示す。そのために読み込むって言います。だから、その項目を、先ほどの例で申し上げたように、社会に貢献するような学習、これをさらに拡大、充実していくための方向というのは多分出てくると思うんですね。そういうふうに文章系で読み込むことじゃないかなと。

【増田部会長】 課題は、そこまでは要らないと思うんですけど。方向性はこちらにまた出ています。

【渡辺委員】 つまり、こういう文書の中に数字が出てきて、興味を持ったら資料のほうを見る、他のところで方向性があっても、結局資料に関して、アンケート結果の資料に対しても資料に入っていますということであれば、そこでもう一回資料をまた見る。同じ資料を何回でも。同じ文面、違う文面の中からも使えるから資料にしてあったほうが見やすいかなと気はするんですけど。

【増田部会長】 事務局、どうですか。

【事務局】 市民意識調査を入れる場所については、当初、資料に入っていました。委員の皆さんの議論の結果、現在の場所に入れることになった経緯があります。議論の結果、資料に持って行くということであれば、戻すのは構わないです。

【足助委員】 ああ、そうですか。

【事務局】 はい。

【増田部会長】 いかがですか、資料として後ろに回したほうがいいということでしょうか。

皆さん、いかがですか。

【辻委員】 私は、課題の分析にもう少しつなげるような形の流し込みをするんだとすると、ここにあってもいいかなという感じはしますね。

市では、市で行っている様々な生涯学習のことが現状としてこうあって、聞いてみたところ、それとのギャップがあるんだよというところを課題として、書き込むのであれば、ここにあると対応関係がわかるのでっていうのはあります。この3つぐらいであればですよ。これが10個も20個もあるんだったら後ろだろうと思いますが、この程度の内容であれば、ここにあってもいいかなという気はします。

【増田部会長】 この意見について、いかがでしょうか。鈴木委員、どうですか。

【鈴木委員】 余り言えないですよ、これに関しては。

【増田部会長】 山本委員はいかがでしょう。

【山本委員】 さっきも言ったんですけど、現状と課題と施策で、ちょっとこう同じようなというか、そういう文章になりがちじゃないのかなって、表があるとワンクッションあったほうがいいという意見だったんですけど、その辺は多分、現状と課題の中で、文章の工夫とか、大変でしょうけど、やればいいのかないかなという感じもします。余りこだわってはいません。

【増田部会長】 どちらでも構わないと。

【山本委員】 ですね。

【増田部会長】 広瀬委員は、いかがですか。

【広瀬委員】 会議も6回重ねてますので、形は形でいろいろ意見はあると思いますけども、前に来たり後にしたり何回もしてるようですけども、それはもうお任せします。

【増田部会長】 深津委員は、後ろということですね。

【深津委員】 当初、資料にあったのは、7月ですか。

【山本委員】 調査結果から見た現状と課題って。

【事務局】 8月末には、資料として掲載させていただいています。会議の議論の中で、現在の第3章に入れ込むようになりました。そして、資料からは削除した経緯があります。

【増田部会長】 藤原委員、いかがでしょうか。

【藤原委員】 文章だけだと、そうかというので終わってしまうような気がします。こういうグラフのようなビジュアル的なものが入ると、一応納得はしますよね、ああ、そうなんだということで。そういう意味ではビジュアル的なものがあった方がいいのかなという気はします。文章だけだともう少し文章の内容を精査しないと。ここにあるこの文章ではちょっと物足りないような気がします。

【増田部会長】 森委員、いかがですか。

【森委員】 私はこのままでいいと思います。資料が5ページも6ページもあるなら別ですけど、1ページや1ページ半で自然の目の流れであるような感じで、この資料を後ろへ回したらこれ見ないですね、ほとんど。ここにあれば、現状ということで参考に目で流していくんじゃないかな。この程度の分量であればこれでいいと思います。

【増田部会長】 岡本委員、いかがですか。

【岡本委員】 先ほどのと同じです。

【増田部会長】 飯牟礼委員、いかがですか。

【飯牟礼委員】 これ、ここで、これからの生涯学習というテーマで、学習成果を活かす仕組みづくりといテーマでここが乗っかってるわけですね、であれば、この分量であれば、私はこのままでいいのではないかなと思っております。

【増田部会長】 意見が分かれるとこなんですけれども、一応、今ご意見を聞いた中では、このままということのほうが多いように思えますので、形式はこのままでいきたいと思えます。

辻委員から出ましたように、このグラフを見て、この数字が課題の中に出てないということですね。

【辻委員】 出すのであれば、もう少しそれを結びつけるような表現にするといいですよ。

【増田部会長】 これは、こういう数字なんで課題がありますよというつながりみたいなものがあつたほうがいいんじゃないかということですね。

【辻委員】 一生懸命書いていただいているんだと思うんですけど、例えば、一生懸命インターネットを使って、ホームページを使って情報発信を一生懸命やっても、ふたをあけてみたら、従来どおりの口コミと広報っていうのが多いという、だから、それを覆すためにもっとニーズを広げるためにもっと必要性を強調しなきゃいけないだよという流れに、それがこうすうっと入っていくような形でうまくしていただけたらというふうに思いました。

【増田部会長】 では、そのような形で変更してみたいと思えます。

【足助委員】 ちょっとよろしいですか。

【増田部会長】 はい。

【足助委員】 どこに置くにしても、このアンケートN値が書いてないんだよね、どこにも。どっかに書いてありますか。

【足助委員】 納得できるような、Nイコール1, 000ぐらいあるんですかね。

【事務局】 正確な数字をすぐに出せませんが、800から700の間だったと思います。

【足助委員】 それがいつ実施したアンケートだという情報をこれに記すの。

【事務局】 はい。資料の「用語の説明」のところに入っています。「生涯学習市民意識調査」ということで、平成25年9月に実施したことと、対象者は20歳以上の方で、市内2,000人を無作為に抽出して実施しましたということを書いています。

【足助委員】 これはあれですか、回収率とか何人とかいったものについても、書いてありますか。

【事務局】 回答者数等については、「用語の解説」にN値等を追加させていただきます。

【増田部会長】 それでは、ただ今の2件については、それでよろしいですか。

それからもう1件、基本理念の上に、「我孫子。私たちは、このまちが好き」の前に、「手賀沼のほとり」、基本総合計画の一文を入れるべきではないかという意見なんですけども、これについてはいかがでしょうか。

追加するという意見に賛成の方、いらっしゃいますか。

【増田部会長】 いかがでしょうか。

【深津委員】 私は追加してもいいと思うんですけども、前にも言いましたけど、このまちが好きですって誰が決めたのと思うので、これを。前につけて、このまちが好きですって、お仕着せがましいなって、こっちをとってほしいなって。

【増田部会長】 他には、いかがでしょうか。

入れたほうがいいのかというご意見ございますか。あったほうがいいですか。

それでは、この件についても、事務局のほうでもう一度、当初計画を作成した方に聞いていただいて、その意見を踏まえまして、まとめていきたいと思います。

では、他に1章、2章について、ご意見、ございますでしょうか。

【深津委員】 基本方針の図なんですけども、訂正の入った図で、このぐるぐる回っている「集う、広がる」は、学びがいかされている、集うっていうのはいいんですけども、つながって広がるんじゃないかと。ここの広がるっていうのがおかしいかな。

【増田部会長】 おかしいと。

【深津委員】 つながって広がる、広がるはもっと。

【増田部会長】 つながりの後じゃないかと。

【深津委員】 うん、じゃないかと思うんですけどね。

【増田部会長】 何かいい言葉がありますか。

今の意見について、何かございますか。

【深津委員】 この表に、自分づくり、人づくり、まちづくりみたいなものは入れられないんですか。

【増田部会長】 ここにですか。

【深津委員】 ここにあるとおかしいですかね。ここに人づくりは入ってる。藤原委員がおっしゃったように、何かこの図を見て何か、あっと思うことがあったりするんですけども。これから変えていただくのがいいかなと。

【増田部会長】 形も含めて検討していくんですけども、言葉もなかなか難しいところなんですけれども、この3つの丸はもう確定してると思うんですが、サイクルの間に入るいい文章なり言葉があればご提案いただきたいのですが。

では、まあ、言葉も含めて、ここについては事務局で検討してみたいと思います。

他に何かございますか。

【岡本委員】 1つ、ちょっといいですか、もとに戻っていいですか。

【増田部会長】 はい。

【岡本委員】 一応、これ決められたことですから十分にもう議論されてなったんですけども、市民ということですね、市民というのは何か、子どもから大人までというのは当然なんですけども。生涯学習という言葉から見て、何となくイメージとして高齢者というか社会人、子どもはあんまり言われてないということで、前回どういうのかな、議論されて、言葉としては「子どもから大人まで」というのが入ったんですけども。できれば、この生涯学習、これの計画見ると、社会人以降の人が対象のような、そういう文面が多いんですよ。要するに、自分はそういうふうに理解していたものですから。

計画策定の趣旨の第1行目に、「市民が」っていうのがあるんですけど、ここで言う市民というのは、幼児から高齢者までのあらゆる世代の人ですよというふうなことを定義づけるような文言を入れてもらったらどうかなと、それで後で見るときに市民という言葉が全部その対象になってしまうだけだね。だから、あえて子どもから大人まで、子どもって入ってますけども、あえて入れなくても、ここでいう市民というのは「幼児から高齢者までの全ての世代の市民、（以下を市民という）という。」ふうな文章でですね、が、いつでも、どこでも、何でも学習できるというふうに続けていったほうが、全体として全てを対象にしてるというふうに理解されるんじゃないかということを考えたんですけどね。

一種の市民の定義ですね。

【増田部会長】 今の意見についていかがですか。何かそれに対してご意見ございますか。

確かに手っ取り早いのは手っ取り早いですが、何か法律の文章みたいな感じになってしまうようですね。

【岡本委員】 というのは、後でつけ加えられた「子どもから大人まで」というのをつけ加えられたんですけども、そこだけつけ加えられると、これは対象年齢はそんな感じになってしまうんですね。そうじゃなしに全て、ここに含まれておるものは全てという意味だと思っております。

ただむしろ、それぞれの施策の中で、子ども用のことが余り入れられてないというのがありますよね。それちょっともとへ戻るようで申しわけないんですけども。次の提案ということで。

【深津委員】 今のこの件と関係のないところでもう一つ、さっきからこのチャートを見ながら、学びから活かす学びと、経験含むとありますけどね。後のほうにも、第3章以降にも経験、知識、技能、技術という言葉が交互に出てくるんですよ。私は、経験というのは、これは学びからは出てこないですね。今までの経験に基づいてその経験をブラッシュアップするために学び直す。だから、スキルだけこれ、英語になってますけど、後から出てくる言葉の中に、技能と技術というような言葉に置きかえられるというね、それが後から出てくる、混在しとるんです。経験と書いてあるところがあるんですけどね、経験という言葉が適切かどうか。

【事務局】 わかりました。その辺のところまた調整してみたいと思います。

【足助委員】 このスキルは、スキルアップというのを受けてスキルになってるんでしょうかね。多分これ、日本語に訳すと技術か技能かどっちかですね。

【増田部会長】 使い方等をはっきりさせてくださいというご意見だと思いますが、そ

の辺はまた調整したいと思います。

市民はどうですかね、この市民は。定義付けしたほうがいいですか。生涯学習自体は確かに子どもから老人までっていうことですが。こちらからやるのは、子ども対象になるものとか、いろいろ別れると思うんですよね。そのところを分けて、ここが市民じゃないとかというような書き方はしていないと思うので。どうなんですかね。確かに、一番最初にここを定義づけすれば手っ取り早いというところがありまして。

【渡辺委員】 幼児から高齢者の市民の定義づけというような形になってくると、在住だとかいろんな事業においてこう、変わってきてしまうものも含まれて定義しないと、ちょっと意味合いが違ってきてしまうものもあるんで、それはぼかしくいという、まだここで定義をきちんとつけないでいたほうが、市民は幼児から高齢者までで、それは住んでない人でもいいのかとかいうことになってしまうことも考えられるので、少し入れなくてもいいかなという気はするんですけども。後で子どもから大人までという文面が結構出てきましたんで、今回は。

【山本委員】 今、渡辺委員おっしゃいましたけど、最後のほうに最初の計画策定の趣旨のところの下から3番目にも子どもから大人までの誰もが学び、活かし、つながるといのが入っていて、というのもあるので、最初の1行目にもこの市民というところに、子どもから大人までということで最初にうたうっていうのはどうかなと。この一番最初の趣旨のところに、ここは子どもから大人までだよっていうのを印象づけて、定義までもしなくても、ここにうたっておくと大分イメージが違うのかなという気がしました。以上です。

【増田部会長】 他にいかがですか、ご意見ございますか。

以下何とか何々に、市民を以下、市民というというような定義づけしなければ、ここは子どもから大人までと言っても通じないことはないと思いますが、それは。以下何々っていう定義づけは要らないとは思いますが、いかがですか、岡本委員。

【岡本委員】 ちょっと思ったものでしから。

【増田部会長】 それでは、直してもいいとは思いますが、一応このままで行くという

ことよろしいですか。

では、他にございますか。

無いようでしたから、3章以降でご意見ございますでしょうか。

【渡辺委員】 3章のまず24ページ、それまでは学習と生涯学習との使い分けが比較的わかりやすかったんですけども、この3章、24ページのぼちの1つ目の生涯学習の普及啓発事業の実施のところが、学習活動を行っていない市民に対して学習のきっかけをつくり、これ、生涯入れなかったのはわけがあって入れなかったのかなと。ここと、その下が、生涯学習のきっかけとなるような内容というような生涯学習に関する情報なのに生涯が入ってない、学習のきっかけとなるようなというのがあって、これ、文面読んで、あれ、これ、外しちゃったのなぜと思ったんですよね。他は割と意味合いが通じて学習という意味合いで使ってるんだなというのがわかったんですけど、ここ、生涯学習じゃないのかなと思って読んだものですから、その辺がわかれば、わかります。

【増田部会長】 どうですか。

【事務局】 再度確認し、修正させていただきます。

【渡辺委員】 簡単に言われちゃうと。

【増田部会長】 これ、生涯学習を行ってないというところの意見が出てるんですよね。

【事務局】 1つ目の○の部分ですが、事務局内部でも最初にある「学習活動を行っていない」という言葉は要らないんじゃないかという意見が出ていまして、ここの部分は修正を考えています。「市民に対し」っていうところからスタートさせようかなということ今検討はさせていただいてます。

【渡辺委員】 それなら別に無理に入れる必要がないかと思うんですけど、ここに、一番頭の丸ぼちの点と下の文面があってなかったもんですから。

【増田部会長】 他に、ご意見ございますですか。

【渡辺委員】 あと他もいい。

【増田部会長】 はい、どうぞ。

【渡辺委員】 32ページで、課題の丸2つ目、これらの催し物のところで、市民の参加しやすいよう配慮するとともにインターネットのメディアを利用して、これ10年の計画でインターネット等っていう文面、言葉が古くなるんじゃないかなと思ったんですけども、どうかな。インターネットって今どき使うか。というちょっと疑問に思いました。それは、まあ大丈夫だろうというのであれば、それはそれでちょっと疑問に思っただけです。

問題なのは、この後で、1つ、施策の方法に対して、ずっとアンダーラインが引いてるところ、最初のアンダーラインの①のアンダーラインの部分はずっと読んだ後、最後、施設の整備の推進を図ります。整備での推進ですよ。これ、新施設のことは全く考えてないのか。体育協会から一応案が少し出るような話を聞いてましたので、新施設が欲しいという。だから10年の間に全く新施設のことは考えずにこの文面ができてるのであれば、ちょっとその辺も頭に入れる入れないは別問題として、片隅に考えていただけて文章が入っているといいかなと思ったものですから、これ、完全に現状の施設を整備するみたいな状態に見えて、新しいことは全く考えないという意味合いにしかとれなかったものですから。教育委員会には全然上がってこない。さっき、理事長いたんだけどね。

【増田部会長】 市の基本計画等の記述を参考にさせていただきます。

【渡辺委員】 絶対にこう、文面が入れたから計画しろっていうわけではないけども、最初から文面がないところには計画も上がらないと思いますので、もし、考えられるのであれば、少しその辺を頭に入れた文言が入ってほしいなと思っただけで。

【増田部会長】 新規施設の整備も考えられるような文言にするということですか。

【渡辺委員】 うん。実際に我孫子市は弓道連盟がある割に、弓道場が布佐下の一部分

あるのはあるんですけども、非常にこう、バラックというか、弓道連盟に使ってもらうには気の毒なような道場があるだけで、できれば体育館のところに弓道場あったほうがというような意見があったり、今体育館、現状、夜使っているのほとんどフットサルのメンバー。フットサルって、ナイター施設があれば外でもできるんで、バスケットボールであったり、バレーボールであったり、体育館の中しか使えないメンバーがもうできないんだよね。あそこ、夜フットサルばかりやるような状況。結局そういう状態で、取り合いという状況はないにしても、もう少し広い施設が。そんなにお金かけなくてもね、できるよというのがあるのであれば、もう少し利用価値も上がってくるということもあったもんですから。体育協会の理事長とお話をして、できればそういう申し出をしたいというような話をしてたもんですから。そういう意味で、できればそういう言葉を欲しいなと思いました。

【増田部会長】 基本計画等の記述を見て、書ければそういうような新施設の整備が読み取れるような書き方を加えていきたいと思います。

【渡辺委員】 はい。

【増田部会長】 書ければですよ。

【渡辺委員】 書ければ。別に、どうしても入れろとは言ってるわけではないんで、これでは全然発展の余地がないなと思ったものですから。

【増田部会長】 他にございますか。

【足助委員】 20ページの現状の一番頭を書いてある、この文章では多分とってつけたような。なくてもいいんじゃないかと思います。

生涯学習センターアビスタが。

【増田部会長】 アビスタですね。

【足助委員】 アビスタが拠点として学習情報の収集と提供を行ってきました。

それと、22ページの課題のところの一番上の丸の一番下の行、一元的に集約して非常に重要だと思うんですね。これをつける形で23ページの施策の方向、①のところに、提供と一元的という言葉を入れていただきたいです。学習の内容の機会についての情報を求める市民に向けて、さまざまな媒体を通じたわかりやすい情報を一元的に提供するという感じに。

【増田部会長】 事務局、そこは入れられますよね。

【事務局】 はい。

【足助委員】 それから25ページ、ちょっと言葉尻をつかまえるので恐縮ではありますが、現状の一番上の丸の3行目、これ、例示をしてありますよね。我が我孫子市にとって国際交流っていうのは一番重要なんでしょうか、頭に。まあ、こういうのはへ理屈っていうんでしょうけど。並び順ですね。

【増田部会長】 順番はどういうふうにしたら。

【足助委員】 わかりません。例えば、国際交流が最初じゃないような気がする。我が我孫子市はまだ。

【増田部会長】 はい。じゃあ、これも検討してみます。

【足助委員】 それから32ページの多様な学びの場ですね、場づくり、我々の話はスポーツの話になってきましたけど、これ、どういう表現なんかは別にして、現在の施設の中の、例えばオーディオ機器とかそういうものをシンプル化してるんですね。それはやっぱりこの世の中のあれにある程度変えていかなきゃいけないんじゃないか。ただ、予算との関係、大いに出てきますけども。それと同じ面で、例えばちょっと具体的なことを申し上げますと、アビスタのホール、ミニホールです、Wi-Fi環境にないですよ。

【足助委員】 例えばこれもでしょう、この建物ね、教育委員会の。市庁舎の中、全部なってるんでしょう。

【増田部会長】 徐々にはやっているといます。充実させていくというようなことですか。

【足助委員】 ええ、そんなようなことがにおわせる記述がぜひ欲しいんですけど。

もうちょっと具体的に言いますと、アビスタのホールのソフト、最初から入ってる、全然変わってないんですよ。これはもう本当に時代遅れもいいところです。

【増田部会長】 一層の充実を図りますとしますね。

【足助委員】 それから、この項目の中に、先ほど私申し上げた経験、知識、技術、技能って言葉、散らばってるんですけども、どういうふうに使分けられるんですかね。

【増田部会長】 それも先ほど申しましたとおり、整理したいと思います。

【足助委員】 それから、これは私がイメージが湧かないので、37ページと38ページに、①の2番目の黒ぽつの一番上の行ですね、生涯学習関連施設等を中心として市民が学習の成果を発表する場と。それから38ページにも同じくだりで、上ぽつですね、知識や技能等の学習成果を活かす機会や発表する場。この発表するというイメージが私自身が湧かないんですが、どういうことを想定しておられますか。事務局にお聞きしたいんですけど。

【事務局】 発表する場というのは、例えばコーラスであれば、コーラスについて学んだことの成果として、人の前で歌を披露するとか、あるいはアビスタのストリート壁面であれば、この壁面を使って、絵画を学んだ成果として自分が描いた絵などをその壁面や展示スペースなどに飾り、他の方々に見てもらうことを考えています。

【足助委員】 はい。

【渡辺委員】 今、いいですか。今ちょうど37ページの話が出たんで。文面の中に、一番下の言葉尻というか最後のほうに、活性化を図りますというような実際に支援をしていきます。本当にやりそうなことが書いてあるんですけども、努めていきます、努めます。行政の方と長くつき合っていて、努めていきます、努めます、ほぼやらない。これはやめたほうがいいと思う、この書き方は。何年もつき合っていて思うけども、努力しますってやっただけのためしがない。だから違う文面に変えたほうがいいと思います。私みたいにへそ曲がりばかりだと困るけども、そういうふうにする人のほうが多いと思いますよ。行政の文面というのは割とそういうところが多いんで、これではというのが出てきてはいけないと思いますので。

それと、34ページの一番上の丸の一番下のところ、文化祭、市民参加型コンサート、めるへん文庫、郷土芸能祭等を提供していきます、これ、提供なのかなというのがちょっと疑問になって、当然、市が場所を設けてくれるんであって、提供になるのかもしれないけど、実際やってる人たちって市民の人ばかりで、これ、えって、提供になるのかな。ちょっと言葉が違うんじゃないかなというようなことで疑問に思いました。何かいい言葉があったら考えてください。

あとは、さっきの中の33ページのICT情報通信技術、これは5章での説明をお願いします。

【増田部会長】 ICTですか。

【渡辺委員】 はい。それと、最後です、私の質問。

43ページに、多様な学びの活動をつなぐネットワークの構築というのがありまして、市民、団体、NPO、大学、企業と書いてありまして、その次の黒丸の後ろ、市民、市民団体、大学、民間事業者、NPO。市民団体とNPOとどう違うんですか。

NPOは、非営利組織、市民活動団体と普通に読ませるものですから、NPO法人ではないんで、これ、こう言っとけばわかりますけども、NPOになってしまうと市民団体とほぼ変わらないイメージなんですよね。NPO法人言うたら、当然法人格を持っている団体なんで、この中には入らないグループかもしれないけども、NPOというふうな書き方されてしまうと、そういうふうなイメージ。非営利組織とやって、市民団体というイメー

ジしか私はない。勉強させてもらったときに、法人がついてないと違うんだよと言われてしまったんで。それはだから、これはちょっとわかりにくいかな。同じものが出てきてしまっているというふうにイメージしました。

【足助委員】 千葉県では、法人格をとっていろいろがいますが、NPOと呼んでますね。

【渡辺委員】 そうですね。でも、その場合には、市民団体と並立はしませんよね。それがNPOで一つですよ。だから、NPOで書くのであれば、市民団体というのは必要ないし、NPOでわかりにくいというのであれば、市民団体と書いてもらえばそれ以上のことは必要ない。NPO法人という形をとって、別の団体の枠で書くのであればそれはそれでいいかもしれませんが、その辺がちょっとわからなかった。以上です。

【増田部会長】 はい。

【山本委員】 今のに続けてですけども、おっしゃるとおりで、これ見て、NPOというのは、ここで言うNPO法人、NPO法人なのかなっていう予測で読み込んでたんですけど、確かに今NPOという言葉自体のひとり歩きとか、捉え方がまちまちなので、この辺の市民活動、公益活動の団体にするのか、そうするともう、団体、団体、団体みたいになってしまうので、その辺のちょっとうちのほうでこういう言葉がいいだろうということで精査しますので、はい。お願いします。

あと、私の意見としましては、39ページぐらいから、学びでつながるまちづくりのところは、かなり地域の活動の分野が多くなっているので、重点的に見させていただいたんですけども、先ほどから意見があるように、ちょっと順番が、重要度とかその辺で並びかえたほうがいいのかないかなというのがあります。

ただ、これ、担当課に投げているわけではないので、このあたりを担当課に投げてその辺は整理するかと思いますので、そのほうを整理すればいいのかと思っています。

あと、箇条書きなんですけれども、ぼつとこう、流れじゃないっていう文章がぼつと入ってくるので、ちょっと読みづらい点はあったので、つけられるところはつけるような、ちょっと流れ、そういう文言にしたほうがいいのかないかなということで、あと課題と施策のほうにもつながるような大分類というか、そういうのもやれるように今担当課のほうに意識

して投げかけたほうがいいのかと思いました。

【増田部会長】 それでは、担当課と調整してください。よろしくお願いします。

今、お二人から意見出ていますが、いかがですか、事務局のほうで整理できますよね。

【事務局】 はい、わかりました。

【増田部会長】 それでは、事務局で直せるところは直していきたいと思います。

他に意見ございますか。訂正箇所だけではなくて、全般、全体を通してどうでしょうか。

【渡辺委員】 一番最後に言葉の説明のときに、入れてもらおうと思ったんですけど、39ページの長寿大学、丸の2つ目ですね、そっちの途中の長寿大学、家庭教育学級や、スポーツフェスタ、総合型地域スポーツクラブ、子育てフェスタ、ジャパンボードフェスティバルといういろんなお祭りが書いてあるんですけども、一般市民でもジャパンボードフェスティバルを知らない人たくさんいます。ですから、こういう意味では、後ろにこのイベントはどういうふうな形でやってるといようなことを全部入れていただいたほうが、この総合型地域スポーツクラブというのも、これ、我孫子型であって、他市へ行くところというタイプの総合型スポーツクラブ、少ないんですよ。総合型のスポーツクラブはほぼピラミッドの三角形でつくられているものですから、トップチームがあって、各団体が所属するみたいな形のチームのほうが総合型が多いんですよ。だからトップチームがない状態で総合型、市民が立ち上げたみたいな状態の総合型というほうが少ないはずなんで、結局、そういう形を他市の人であり、我孫子市の人でもそういうことを知らない人のほうが多いんで、こういうのはやっぱり後ろのほうで少し文章の説明が必要なのかなというふうなことも思いましたので、この中にどんどん名称を入れるのはいいけども、そういうイメージでは後ろのほうで説明をお願いしたいと思いました。

【増田部会長】 他にございますか。

【渡辺委員】 4章もやるんですよ。

【増田部会長】 4章も含めてどうぞ。

【渡辺委員】 ああ、いいですか。では、すみません、4章もやっていいということで、47ページの表がありますよね、市民の多様な生涯学習活動というのを頭にやってのこともなんですけども、矢印がいろんな方向を向いてまして、点線の枠の、大きな枠じゃなくて小さな枠のほう、点線の大きな枠のほうは「生涯学習に関するネットワーク」ということで、口頭で説明するにしてもわかりやすいんですけども、小さな枠が、これ、団体名がないという。誰が指導するかも書いてない。恐らくこの網線、網がつかかって、生涯学習推進本部が拠点となる場所なんだろうけども、幹事会と審議会が別の組織としてある以上、ここが何かの団体名があるか、リーダーがどっかをとるといような形でないと、この連携であったり協力がどこの団体にどういうふうな形でアプローチするかがわからないようになってしまうので、できればここ、名称があって誰かがリーダーをとるといような形が欲しいかなと思うんですけど。これ、推進本部というのがこれなの。

【増田部会長】 いや、これはここには載っていません。

【渡辺委員】 組織名も何もないよね。推進本部でやるの、これは。

【増田部会長】 推進本部っていう組織です。

【渡辺委員】 推進本部は推進本部という組織。

【増田部会長】 組織です。枠の名前がないということですか。

【渡辺委員】 そうです。

【増田部会長】 生涯学習に関するネットワークみたいんですか。

【渡辺委員】 そうです。

その四角の枠との連携、協力というのが市民、生涯学習団体であったり、下の庁内関

係部署は連携することになってるけども、それは矢印がその団体としか矢印を結んでないわけで、この団体が何だかわからないと。

【増田部会長】 この枠は、理由を強いて言えば推進体制ですね、小さな枠が。

【渡辺委員】 小さな枠は推進体制なの。

【増田部会長】 推進体制ですね、言うとすれば。

【渡辺委員】 審議会があつて、体制というのがこの枠なんですね。
ちょっとその辺がわからなかった。

【増田部会長】 つけるとすればですけれども。

【渡辺委員】 結局、庁舎、庁内のこの関係部署は推進本部と直に話をするのかもしれないけども、そこが生涯学習審議会のほうとの話もちゃんとつけておいていただけないと、この団体の枠内がぎくしゃくしてしまうというか、わけがわからなくなってしまうという状態になってしまう。市民団体だったり、生涯学習団体は、比較的その幹事会や本部には声をかけにくいのであれば、結局、審議会のほうにお願いしたいというような話になってくると、審議会から本部であつたり、幹事会のほうの枠の中の話し合いをしていただかないと、市民の声が上がってこなかったりするわけですから、何かしらの会議か何かを持っていただかないと、これは動きづらくなってしまふような感じがします。

【増田部会長】 そうですね、これはもう少しわかりやすくする予定でいます。

【渡辺委員】 余り組織がいっぱいつくるのもよくないのはわかるんだけどさ、ないと困っちゃう。

【増田部会長】 事務局で、分かりやすくなるように検討してみます。

他に、ご意見ございますか。全体を通してでも結構です。ございませんか。

これは先ほども申し上げましたとおり、今回の会議の意見をまとめまして、この策定部会の計画案として最終決定をしていきたいと思えます。このまとめたものを持ってこれからパブリックコメントや市議会への説明資料として使っていきます。その後、改めまして、あびこ楽校協議会、社会教育委員会議、それから幹事会で意見を聞いて生涯学習推進本部会議で最終決定していきたいと考えております。

他にご意見は、ありますか。

今回のご意見を踏まえまして、事務局で調整した計画案について、12月の末ぐらいまでに委員の皆さんに送付させていただきたいと思えます。改めまして確認をいただければと思っております。

さらに、策定部会になりますが、今回で終了して解散ということではなくて、最終的には決定した内容の報告を行いたいと思えますので、3月にもう1回、開催を予定しております。よろしくお願ひします。

では、ご意見が無いようですので、一応策定部会としてはここで検討会議を終了させていただきます。決定した段階でまたご報告をしたいと思えます。

6回にわたって皆さんから貴重な意見をいただきまして本当にありがとうございました。本日の会議はこれをもちまして終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

あと、事務局から報告がございます。

【事務局】 部会長の復唱になってしまいますが、今年の6月から本当に長い間ありがとうございました。

今後のスケジュールということになりますが、今現在、市役所の全課にこちらの計画の内容の確認を投げかけています。文言の整理を含め内容の整理、検討をしていただいている最中です。

本日、皆様から上げていただいた意見と各課から上がってきた意見を合わせまして計画案としていきたいと思えます。まとめさせていただいた計画案をパブリックコメントとして、12月25日から来年の1月22日まで、ご意見をいただく機会ということで期間を設けさせていただきます。また、市議会に対しても説明をさせていただきご意見をいただいています。その他には、教育総合会議、教育委員会議等にもご意見をいただき、最終的には、2月12日に生涯学習推進本部会議の場で決定をしていくというような形で

今後進めさせていただきます。ただし、その2月12日の間にも、皆様の社会教育委員、あびこ楽校協議会、それから幹事会にも再度意見を求める機会を求めていきたいと思っております。

次回の会議になりますが、皆様には6月の会議でお知らせさせていただいて、2月5日が予定されていたと思いますが、こちらの部分につきましては、延期させていただいて、先ほど部会長からお話ありましたが、次回の会議につきましては、報告の場として3月頃に調整をさせていただきたいと考えています。また、正式に決まりましたら、皆様にご案内の通知をさせていただきたいと思っております。その時には本計画ができ上がり製本されるであろうと今考えておりますので、その製本された計画をお渡しするとともに、本日以降に発生した変更点もありますのでその辺のご説明をさせていただきたいと思っております。

事務局の不手際などが多々あったと思いますが、計画案がまとまりましたことを深く感謝いたします。本当に今まで長期間にわたりありがとうございました。

【増田部会長】 以上で終了します。どうもありがとうございました。